

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	021 -	事業名	大学連携事業	担当部課	くらし文化部たつせがある課
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ みんなの力を結集する自治と協働のまち	会計区分	一般会計	
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「つながり」～一人ひとりに役割と居場所があるまち～	予算区分(款 - 項 - 目)		
	第6次総合計画・基本目標	✓ 「やってみたい」でつながるまち	2-1-9 まちづくり協働費		
	法定受託事務の有無	—			
	その他(関係計画、要綱等)	✓	大学連携推進協議会設置要綱、大学連携推進ビジョン4U		
事業開始の背景、経緯等	市内4大学と包括的な連携に関する協定書をそれぞれ締結し、個々の大学との連携については実績を積み重ねているが、第5次総合計画の基本施策「大学をまちづくりに生かす」を具体的に進めていくため、市と市内大学による長久手市大学連携推進協議会を設置した。				

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学・地域・市が協働するまちづくりを推進するため次の事業を行う。 ①大学連携推進協議会、大学連携連絡調整会議等の開催及び協議会主催の連携事業の実施 ②大学から提案のあったまちづくり事業への助成(大学連携提案助成金事業)			
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市内4大学、近隣大学、市民、企業及び行政			
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 大学と行政の連携事業の推進体制を確立するとともに、市民が大学、行政と連携した事業に様々な形で身近に参加できるようにする。			
	事業を構成する事務事業(B票)	① 大学連携事務事業	改善・見直し	④	
	② 大学連携提案助成金事業	改善・見直し	⑤		
	③		⑥		

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	決算	予算	1,295	5,482	3,932	1,344
決算				438	1,044	3,590	1,191	
人件費(B)	千円	決算	7,638	6,111	7,008	6,131		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	8,076	7,155	10,598	7,322		

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A 大学連携事業実施件数	件	目標	実績	30	40	40	40
実績				39	38	23	19	
B		目標	実績					
			実績					
C		目標	実績					
			実績					
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 大学と連携した事業をより多く企画、実施できるようにするため、本市における大学連携事業実施件数を成果とする。								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 大学との包括連携協定を実施している近隣の実施市町：瀬戸市(大学コンソーシアム)、尾張旭市、日進市、豊明市、東郷町、みよし市、豊田市
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 事業実施件数の目標は達成していないが、大学と連携して事業を実施することについては、「大学連携推進ビジョン4U」に伴うイベント(市内4大学合同ワーキングなど)や提案事業助成金事業の実施により、市職員始め市民、企業等へ浸透しつつある。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 市内4大学と学生、市民、企業、行政などが連携し、まちづくりに生かす協働の仕組みを作るため、大学連携推進ビジョン4Uを市内4大学と共に策定し、合同事業などを実施した。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 大学と市との連携を更に強化し、「大学連携推進ビジョン4U」に基づく新たな連携事業を検討していく。また、市外大学との包括連携協定の実施や相互連携の方向性を考える必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 「大学連携推進ビジョン4U」に基づく大学と連携した事業を、より多く企画、実施できるようにする。また、大学だけでなく市民や企業、市外の近隣大学を絡めた事業も検討していく。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 「大学連携推進ビジョン4U」の計画期間の最終年度である平成39年度を目途に、ビジョンに基づく事業を展開していく。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。 ・行政改革指針に係る「協働事業の拡大(市民、市行政、大学、民間の連携拡大)」を踏まえ、引き続き事業に取り組んでください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	大学連携事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	①	大学連携事務事業	予算区分	2-1-9 まちづくり協働費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成24年度	終了(予定)年度	-		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内4大学をはじめ近隣の大学と連携し、大学連携推進協議会、大学連携連絡調整会議等の開催、学生向けの市長秘書インターンシップ等を実施する。 また、大学連携推進ビジョン4Uに基づき、市内4大学合同事業を実施する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市と大学との連携を密にし、まちづくりに活用する。市長秘書インターンシップに参加してもらうことで、学生に市政について意識してもらう。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算 決算	653 338	690 324	240 201	944 806	204
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		4大学合同講座運営委託					400千円
(2)		ホームページ保守運営委託					224千円
(3)		愛芸アシスト法人会費					100千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
協議会及び連絡調整会議実施	回	見込 実績	6 4	6 4	6 3	6 5	6
市長秘書インターンシップ応募者数	人	見込 実績	7 7	8 3	6 8	8 2	8
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度実績：協議会3回、連絡調整会議2回 市長秘書インターンシップ:2人採用 大学連携合同ワーキング年4回、交流会1回開催。 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

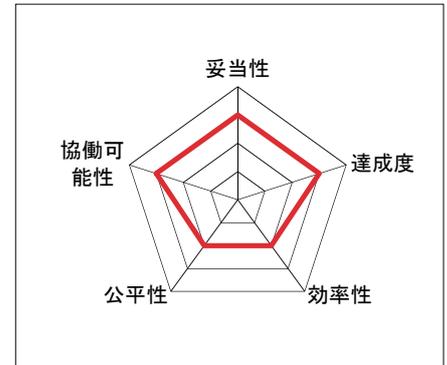
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 市外の大学から包括連携協定の打診があり、今後協定の範囲を広げ、協議会の在り方を検討する必要がある。平成30年3月に「大学連携推進ビジョン4U」（大学連携基本計画）を策定した。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
944千円 204千円 Δ740千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】 「大学連携推進ビジョン4U」に基づく事業を展開するため、市内4大学が合同で実施する事業など、新たな事業を模索していく。市内だけでなく、市外にある近隣大学との包括連携協定を進め、大学との連携事業の拡大を図る。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか) 市内4大学合同事業を各大学から推薦を受けた教員と共に検討し、ワーキングや交流会を実施した。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	2
公平性	2
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込		100	300	400
実績		106	356	

(2) 協働の状況(30年度(2018))
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など) 市内4大学の学生や教員、市民を交えて合同ワーキングを実施した。年度末に交流会を開催し、成果報告や来年度事業に向けたワーキングを実施した。

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など) 平成30年度より、大学連携推進ビジョン4Uに基づく市内4大学合同ワーキングを開始した。市長秘書インターンシップは、秘書の実習ができる機会がなく好評であり、今後も実施の希望がある。市が主体で協議会が実施されており、大学からの提案事項はほとんどないことが課題である。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など) 市内4大学合同ワーキングを実施したことにより、各大学における合同ワーキング開催に関する課題が明らかになり、その解決のために、各大学とのより綿密な調整等を進める必要がある。大学連携の幅を広げるため、市外近隣大学との包括連携協定に向けて引き続き調整を進めていく。

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	大学連携事業		担当部課	くらし文化部たつせがある課	決算書ページ	—
事務事業名	②	大学連携提案助成金事業	予算区分	2-1-9 まちづくり協働費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成27年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市内4大学と連携し、大学・地域・行政が協働するまちづくりを推進するため、大学から提案された地域の課題の解決及び地域の魅力の向上を目的としたまちづくり事業について助成を行う。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) まちづくりに関わる事業を助成することで、大学と行政の協働・連携に結びつける。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
事業費	千円	予算	200	200	200	400	400
		決算	100	159	200	385	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		提案事業助成金				385	千円
(2)							千円
(3)							千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
提案助成金事業 申請件数	件	見込	2	3	6	6	6
		実績	1	4	2	4	
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> 平成30年度実績：申請のあった4件とも採用している。 愛知県立芸術大学1件、愛知県立大学2件、愛知医科大学1件。交付額はいずれも10万円(上限額)。 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

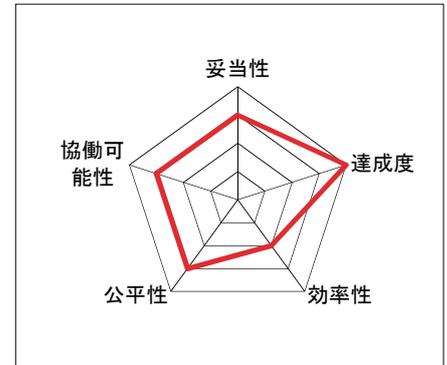
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
平成30年3月に「大学連携推進ビジョン4U」(大学連携基本計画)を策定した。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
400 千円 400 千円 0 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 拡充
・前年度【コメント】
学生の更なる成長を目指し、学生による申請数の増加やプレゼンテーションの参加を推進するため、プレゼンテーションを学生のみとするなど、要綱の改正を進める。「大学連携推進ビジョン4U」策定に伴い、平成30年度は予算を増額し、採用件数を上限10万円×2件→上限10万円×4件とし、より一層の活用を促す。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
予算の増額に伴い、採用件数が2件から4件に増加した。学生によるプレゼンテーションを条件としたことで、学生の積極的な参加や成長につながった。
※予算科目変更

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	4
効率性	2
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	元年度 (2019)
見込	20	20	40	40
実績	26	17	76	

(2) 協働の状況(30年度(2018))

(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)
申請者である学生・教員など大学関係者と、市内関係団体や市民と共に、学生などが提案するまちづくり事業を市担当課と連携して実施した。(実績人数は申請時の団体名簿より算出)

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
学生によるプレゼンテーションを実施することにより、学生主体の事業実施につながった。
市の担当課との連携があまり行われなかった案件があり、申請時や事業実施時における担当課との関わり方が課題となっている。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
大学連携推進ビジョン4Uを策定したことに伴い、ビジョン4Uに基づく事業として位置づける必要があり、合わせて大学にとって申請しやすい事業として存続させるため、各大学と調整を進めていく必要がある。
平成31年度予算はビジョン4U関連事業と本事業を合わせ、新たな予算枠とする。

7. 今後の方向性

改善・見直し